

授業科目	小児看護学 目的・対象論	実務経験	開講時期	単位数	授業形態	時間数
		◎	2年次前期	1	講義	30時間
到達目標	1. 小児看護の目的、対象、役割を理解する。 2. 小児看護における倫理について理解する。 3. 子どもの成長・発達に応じた遊びと学習の意義について理解する。 4. 子どもと家族(養育者)を取り巻く社会について理解する。					講師
						専任教員
授業計画						
1回	1. 子どもとは 2. 小児看護の目的 3. 小児看護の対象：子どもの特徴、子どもと家族・社会、子どもと医療					
2回	1. 小児看護の役割 2. 子どもと家族の諸統計 3. 小児看護の歴史と変遷：小児医療、小児看護、児童観・育児観の変遷					
3～4回	1. 子どもの権利：児童の権利に関する法律、子どもの虐待防止 2. 小児看護における倫理：倫理の定義・原則、医療現場でおこりやすい問題点と看護 (GW)					
5回	子どもの成長・発達の特性①：成長・発達とは、成長・発達の進み方の特徴、成長・発達に影響する因子					
6回	子どもの成長・発達の特性②：成長・発達の評価 発達理論：ピアジェ、エリクソン、ボウルビィ等					
7回	小児各期の成長・発達①：乳児期の特徴と養育のポイント					
8回	小児各期の成長・発達②：幼児期：身体の成長・発達 知的機能の発達 コミュニケーション機能の発達					
9回	小児各期の成長・発達②：幼児期つづき：情緒・社会的機能の発達、生活習慣の獲得、幼児の養育のポイント					
10回	子どもの遊び①：遊びの意義、遊びの発達と社会性の発達、遊びの実際(0～2歳児)					
11回	子どもの遊び②：遊びの実際(3～5歳児)、遊びの演習(折り紙、あやとり、手遊びなど)					
12回	小児各期の成長・発達③：学童期の特徴と養育のポイント、子どもにとっての学習の意義					
13回	小児各期の成長・発達④：思春期・青年期の特徴、心理・社会的適応に関する問題と看護					
14回	子どもをめぐる法律と政策：子どもの保健・福祉行政の推移、児童福祉、母子福祉、医療費の支援、予防接種、学校保健、食育、特別支援教育、臓器移植					
15回	まとめ					
評価方法	修了試験 選択肢又は論述問題による筆記試験(100%)					
教科書	系統看護学講座 専門分野 小児看護学①小児看護学概論小児臨床看護学総論 医学書院					
備考	予習においてはテキスト、関連書籍の該当ページを熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。復習においてはテキスト、講義資料・参考文献を用いて学習した内容を整理し、理解を深める。					